

5 高田郷

50年前(1969.1.1):人口 3,925人 世帯数 985

現在(2019.1.1) :人口 10,591人 世帯数 4,626

北陽台

現在(2019.1.1):人口 1,469人 世帯数 407



長与南小学校建設地 昭和 61(1986)年 10月



長与南小学校 令和元(2019)年 5月

昭和 60(1985)年から約 22 ヘクタールに 508 戸の宅地造成が行われた南陽台団地内に長与南小が建設された (昭和 63(1988)年 4 月開校)。南陽台団地の完成と合わせ、長崎バスの路線がここを通るようになり、一段と都市化が進んだ。



県道大草長崎線改良工事 昭和 45(1970) 年

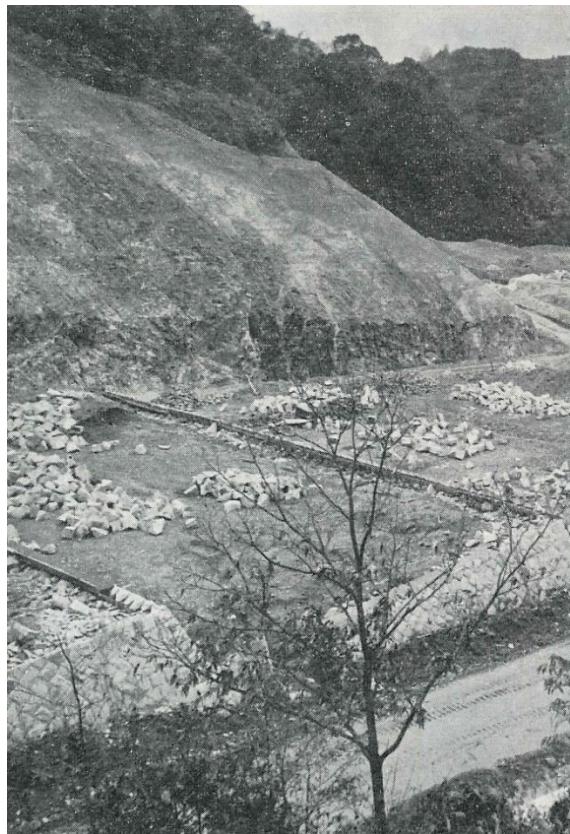


高田駅前 令和元年(2019)年 5月

下高田立体交差より道ノ尾方面 340 メートルの工事。立体交差は国体を目前に急ピッチで工事が進められたもの。長与町ではこのころから住み良い環境の町づくりを目指して積極的な工事が進められた。川沿いの景観も、長与川の河川改修工事と県道の改良工事の進展に伴って逐次変わっていく。

JR 高田駅が誕生したのは平成 6(1994)年。

昭和45年度



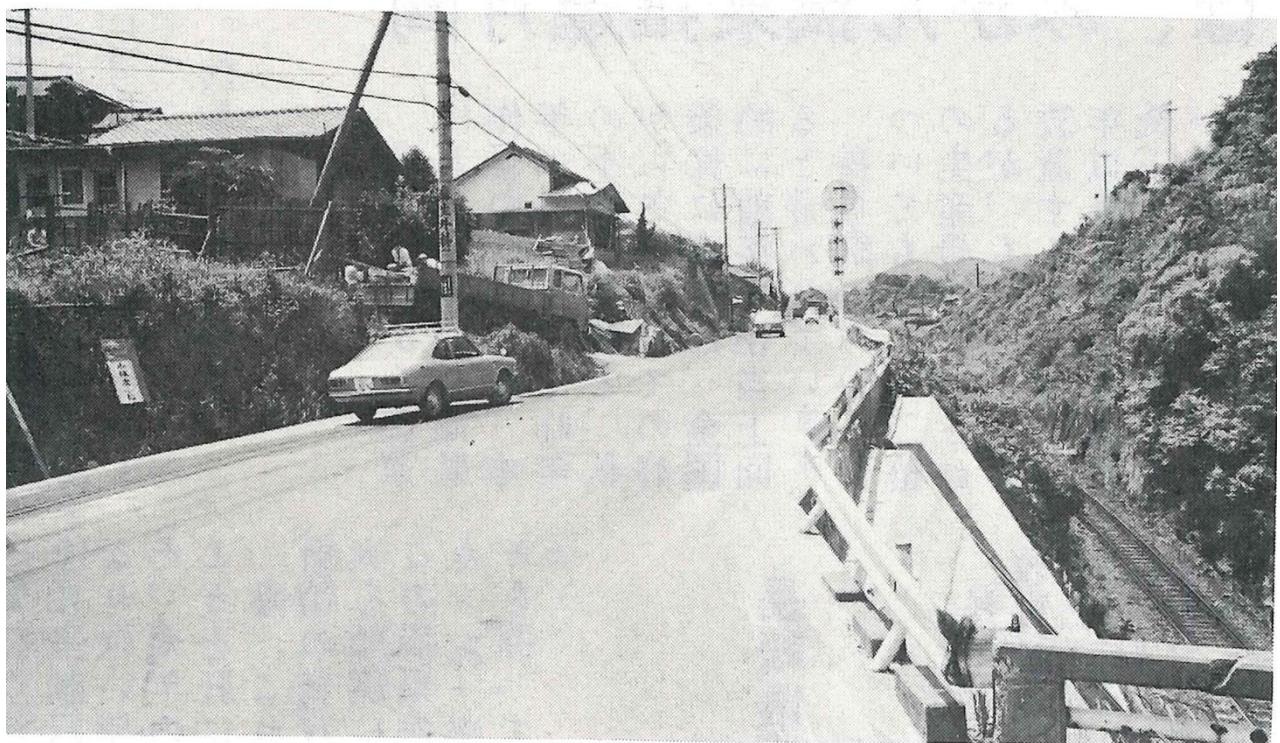
東高田公営住宅工事 昭和 45 (1970) 年



東高田公営住宅工事造成完成 昭和 46 (1971) 年

東高田 令和元 (2019) 年 5 月

昭和 45(1970) 年、公営住宅の建設のため 2 万 1,000 平方メートルの宅地造成が行われた。昭和 46(1971) 年宅地造成完成。この中に公営住宅 52 戸、公園 2 か所、分譲宅地 22 区画が計画された。(現在東高田公営住宅は 77 戸)



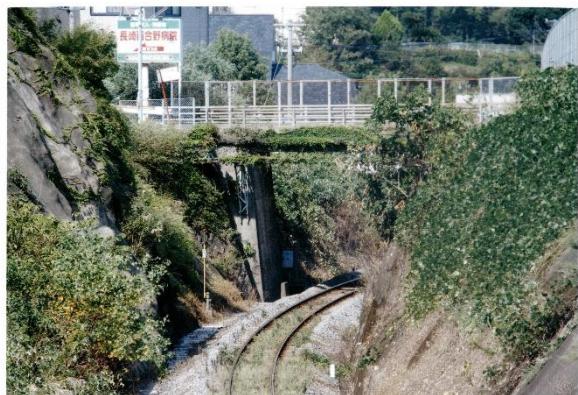
百合野橋より長崎市方面 昭和 47(1972)年



百合野橋 令和元(2019)年 5月



高田越付近長崎本線線路工事 明治 30(1897)年



高田越付近長崎本線 平成 30(2018)年

明治 30(1897)年 7 月 22 日に開業した長崎～長与間鉄道敷設のための工事。



高田越橋架け替え工事前 昭和 52(1977) 年



高田越橋 令和元(2019)年 5月

高田越橋は、明治時代の国鉄開通時に木造で架設され、昭和 7(1932)年に幅員 3 メートルの鉄骨橋になった。高田地区と滑石地区を結ぶ道路として、交通量が激しく、老朽化と人と車の往来に危険を生じていたため、昭和 52(1977)年より架け替え工事が行われ、昭和 53(1978)年に完成している。

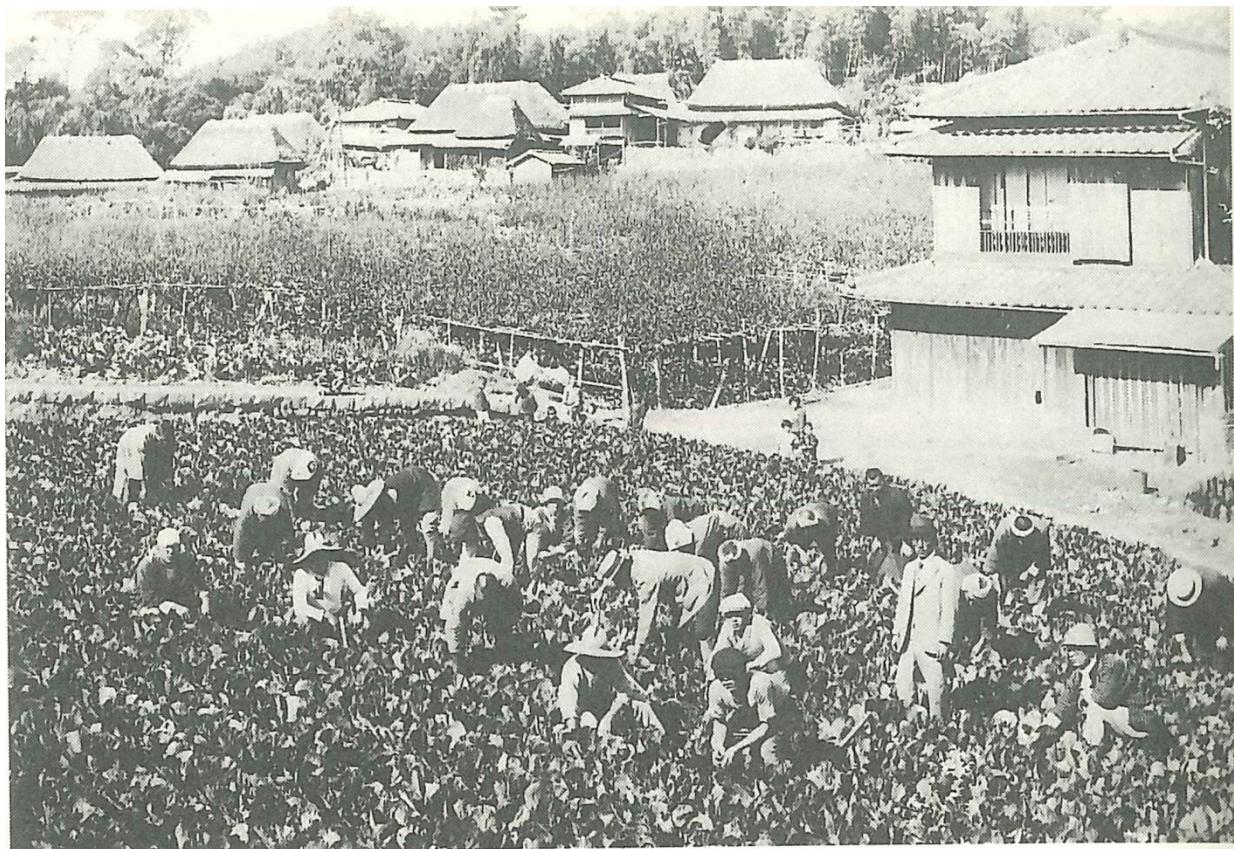


百合野辻田道 昭和 40(1965)年頃



百合野辻田道 令和元年(2019)年5月

現在、右手には辻田白菜発祥の地の建立碑が建つ。



百合野 辻田白菜採種事業 昭和 10 (1935) 年頃



百合野郵便局近く 令和元 (2019) 年 5 月

大正時代より数々の品評会で上位入賞を果たし、大正天皇・皇后両陛下に献上した名誉ある百合野の辻田白菜。百合野の農家は一致して、高く評価された辻田白菜の共同採種栽培に当たり、種子の販売を行った。しかし、第二次世界大戦や、果樹・野菜の多角経営から、みかん単一経営へと経営組織の転換が図られると、白菜部門は次第に縮小。昭和 36 (1961) 年、組合経営による採取事業は終わりを告げた。また、百合野地区の住宅団地化の影響を受け、昭和 48 (1973) 年をもって、辻田白菜の採種は 50 余年の幕を閉じた。

写真右の建物は当時の公民館。現在は商店や飲食店が入る建物がある場所となる。



高田地区コミュニティ運動会(高田小学校にて) 昭和 49(1974) 年

高田地区は昭和 47(1972)年にモデルコミュニティ（望ましい近隣社会づくりのモデル）として自治省（現在の総務省）の認定を受け、以来活発なコミュニティ活動が行われている地域。



道ノ尾駅周辺 昭和 62(1987) 年 3 月



道ノ尾駅周辺 令和元年(2019)年 5 月



道ノ尾駅 昭和 31(1956) 年 9 月



道ノ尾駅 令和元年(2019)年 5 月



道ノ尾駅 昭和 40(1965) 年代か



道ノ尾駅 令和元年(2019)年 5 月

明治 30(1897) 年 7 月 22 日開業 (上り・下りとも)。
昭和 20 (1945) 年 8 月 9 日の原爆投下時、道ノ尾駅は救援列車の基点として、負傷者を満載して次から次へと諫早・大村方面へと輸送した。また、駅前広場には臨時救護所が設けられ、医師たちによる応急治療が行われるなど大きな役割を果たした。



道ノ尾ホテル 昭和 37(1962) 年頃



道の尾グラウンドより 令和元年(2019)年 5月

昔の道の尾は山間の農村であった。明治の初め頃、古田吉平氏によりラジウム温泉が発見され、これをきっかけに長崎近郊では珍しい温泉旅館、料亭を創業した（現在のファミリーマート道の尾店の裏辺り）。さらに古田氏によって私立の公園施設が開発・造成され、桜の名所となり、長崎方面からの見物客で大いに賑わった（現在は忠靈碑のみ。高田南土地区画整理事業地内）。

写真は道ノ尾ホテル。現在の社会保険長与宿舎付近にあり、昭和 40(1965)年頃まで営業。ホテル裏手にはプールもあった。

長崎市と長与町にまたがる浦上水源地は昭和 20(1945)年に完成。



日当ノ尾採石場 昭和 34(1959)年



長崎商業高校付近 令和元年(2019)年 5月

日当ノ尾での採石の様子。当時は地域の住民たちが、自分たちの地域の道づくりのために岩山（石山）から石を運んでいた。

（注）当時の場所がはっきりしていません。